

参加会議：国際標準化機構（ISO）TC8（船舶海洋技術）会議	
会議期間：平成 21 年 10 月 26 日～30 日	会議場所：イズミール、トルコ
海技研からの参加者 吉田 公一：国際連携センター長	主な貢献 吉田は、ISO/TC8/SC2（海洋環境保護）の議長を 2006 年以来務めている。今次 TC8 総会では、SC2 の活動を報告するとともに、その将来作業可能項目（船上発生ごみの港受入施設の標準、船舶からの温室効果ガス:GHG 排出のマネジメント標準など）を照会した。 また、TC8 総会の期間中に、ISO/TC8 が作成している ISO 規格の海洋環境保護への利用に関するセミナーが開催され、吉田は ISO/TC8/SC2 の活動を報告した。 さらに、同時に開催された ISO/TC8/WG1（シップ・リサイクル）作業部会会議に出席し、ISO 30001「船舶解撤ヤードの標準」の起草、ISO 30006「船内の危険物のインベントリ」及び ISO 30007「船舶解撤におけるアスベストの除去方法」に貢献した。
	
ISO/TC8 セミナー（吉田：右から 2 人目）	
主な審議結果	
I. TC8 会議	
1. SC2 の報告	
吉田は SC2 の作業の進捗を以下のように報告した。また、これらを「ISO/TC8 が作成している ISO 規格の海洋環境保護への利用に関するセミナー」においても紹介した。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO 21070(船上ごみの取扱いマネジメント): CD 投票中。 ・ ISO/DIS 21072-1(オイルスキマの試験 Part 1 流動水での試験): 2009-02 月に発行した。 ・ ISO/DIS 21072-2(オイルスキマの試験 Part 2 静止水での試験): FDIS 投票済み。発行待ち。 ・ ISO/DIS 21072-3(オイルスキマの試験 Part 3 高粘度油での試験): FDIS 投票待ち。 ・ ISO/CD17031-1 (船底防汚システム AFS に使用される活性物質の海洋環境アセスメント): CD 投票待ち。 ・ 準備作業 ISO 16446(オイルブーム：異なった接続仕様のブーム間の連結具)の改正: 改正案作成中。 ・ 準備作業 ISO 16165(環境レスポンス：用語) の改正: 改正案作成中。 ・ 準備作業 船上ごみの港受け入れ容器標準: WG4 にて起草中。 ・ 準備作業 活性物質を使用する船底防汚システム AFS の海洋環境アセスメント: WG5 にて起草中。 ・ 準備作業 船舶からの水中騒音の測定方法: タスクグループを設置して起草中。 	
また、以下の将来可能作業項目を照会した。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 船底防汚システム AFS の施工及び除去における人へのリスク・アセスメント ・ 船舶からの温室効果ガス:GHG 排出のマネジメント標準 ・ 船舶のエネルギー効率運航インデックス ・ 船舶のエネルギー効率新造船設計インデックス ・ バラスト水サンプルの取り扱い方法 	
2. 船舶から水中への騒音(Underwater Noise: UWN)	
SC2 が、船舶からの水中騒音の測定方法の ISO 規格案を起草中である。TC8 はさらに、「船舶からの水中への騒音発信の低減に関するガイド」が次の可能な作業であることに合意し、SC2 に準備作業を指示した。	
3. 船舶の海上公式試運転の方法	
TC8 議長は「韓国が EEDI の検証方法の中で引用している ISO 15156 海上公試の改正を IMO-MEPC59 会議で提案したので TC8 でこれを受ける。」旨提案したが、吉田が「ITTC で実海域での性能評価関係の作業が始まるから、それを待って ISO15156 の改正をすべき」旨提案し、韓国代表もこれに賛成し、反対する国はなく、次のように決った。「ISO 15156 の改正は、ITTC の成果を得た上で、必要に応じて TC8/SC6（今津東京海洋大理事が議長）で行うこと。」	
4. IMO 防食システム性能基準を補助する ISO 規格	
海上人命安全条約（SOLAS）によって強制使用される IMO 防食システム性能基準（PSPC）を補助する ISO 規格作成の新作業提案に関しては、IMO が PSPC を作成する段階で日本が提案した技術内容（多くは日本船舶技術研究協会の研究成果）を ISO に盛り込もうとするものであるため、これに賛成すべきであるという認識を得た。本件は新作業投票中である。	
5. 船内 LAN	

船内の情報伝達を船内 LAN を利用して行うための ISO 規格作成提案(日本提案)は、「Ship Communication Network: SCN」として、ISO/TC8/SC6 で作成することとなった。

II. TC8/WG1 (シップ・リサイクル) 作業部会会議

ISO 30000 シリーズのシップ・リサイクルに関する会議は、英国、ドイツ、トルコ及び日本のプロジェクト・リーダー(日本は吉田)が集まって開催し、以下のように規格作成を進展させた。

1. ISO 30001 (解撤ヤードの標準ガイド)

プロジェクト・リーダーの Emrah Enginer が、ISO 30001 の構成の考えを披露した。吉田は、日本が 30001 の起草に協力する用意があることを述べ、参加者の了解を得た。会議は、早急に WD30001 を用意する必要上がることを認識した。

そこで吉田は、30001 の内容を、解撤ヤードのマネジメント、設備、解撤作業及び記録・文書の項立てとし、内容を詰めることを提案し、会議はこれに沿って内容を議論・検討した。この議論には、トルコの解撤ヤードのマネジャー及びシップ・リサイクル条約対応責任者、並びにトルコの環境認証(ISO14001)関係者も参加し、内容を実施可能なものとする方向で議論を進め、最初の草案を作成した。今後早急に、Emrah Enginer が吉田の協力の下に、WD30001 を起草し、今年中に CD 投票に出すことを目標とすることに、WG1 は合意した。

2. ISO 30004 (ISO 30000 の実施方法)

プロジェクト・リーダーの Robin Townsend が、手短に WD30004 案を紹介した。メンバーは 11 月末までに、この WD 案に対するコメントを Robin に出し、Robin はそれを考慮に入れて CD Text を用意し、CD30004 投票に出すこととなった。

3. ISO 30005 (造船及び運航における危険物情報管理)

プロジェクト・リーダーの Henning Gramann が、手短に WD30005 案を紹介した。メンバーは 11 月末までに、この WD 案に対するコメントを Henning に出し、Henning はそれを考慮に入れて CD Text を用意し、CD30005 投票に出すこととなった。なお、本件に関しては、海上技術安全研究所の成瀬研究員が日本で担当している。

4. ISO 30006 (船舶内の危険物のインベントリ)

プロジェクト・リーダーの吉田が、CD30006 に対するコメントへの回答案及び PAS 案並びに DIS 案を照会した。会議はこれを概ね了承した。メンバーは 11 月末までに、この WD 案に対するコメントを吉田に出し、吉田はそれを考慮に入れて PAS text 及び DIS Text を用意し、PAS としての発行及び DIS 投票のために TC8 事務局経由で ISO 中央事務局へ出すこととなった。

5. ISO 30007 (船舶解撤におけるアスベストの除去方法)

プロジェクト・リーダーの吉田が、CD30007 に対するコメントへの回答案及び PAS 案並びに DIS 案を照会した。アスベスト除去作業の Grade 1 と Grade 2 の作業の分類に関しては、アスベスト含有材料 (ACM) を分割・切断(電動工具による切断作業のみでなく手作業も含む)する場合には、Grade 1 で行うべきことで、トルコの解撤ヤード関係者を含めて合意した。アスベスト除去作業 Grade 3 は、ACM のある部分とその外郭を含めて隔離(梱包)して運び出す作業に限定することも合意した。従って、現場でフランジを開けて、ACM のガasket を外す作業は Grade2 となる。メンバーは 11 月末までに、この WD 案に対するコメントを吉田に出し、吉田はそれを考慮に入れて PAS text と DIS Text を用意し、PAS としての発行及び DIS 投票のために TC8 事務局経由で ISO 中央事務局へ出すこととなった。

6. ISO 30000 シリーズの現状

以下を確認した。

ISO 30000(シップリサイクル・マネジメントシステム) 発行済み

ISO 30001(解撤ヤードの標準ガイド) PAS 及び DIS 文書作成中(上の 1 参照)

ISO 30002(解撤ヤードの選択方法) PAS 発行済み。DIS 投票中。

ISO 30003(シップリサイクル・マネジメントを認証する団体に関する規定) FDIS 投票終了。発行待ち。

ISO 30004(ISO 30000 の実施方法) CD 案作成中(上の 2 参照)

ISO 30005(造船及び運航における危険物情報管理) CD 案作成中(上の 3 参照)

ISO 30006(船舶内の危険物のインベントリ) PAS 及び DIS 文書作成中(上の 4 参照)

ISO 30007(船舶解撤におけるアスベストの除去方法) PAS 及び DIS 文書作成中(上の 5 参照)

III. 次回会議

次回 ISO/TC8 会議は、2010 年 10 月 25 日から 29 日に韓国において開催される。